

日本と中国の現状 ～顔の見えない国からの脱却

- 米国と並ぶ重要なパートナーとして認識を
中国と日本は、歴史的にも経済的にも密接な関係を持っています。しかしながら、中国について十分理解されていないのが現状です。このために様々な摩擦を引き起こしているのではないかと思います。

現在、中国は輸出相手国としては米国に次いで第2位、輸入相手国としては第1位の地位を占めています(グラフ参照)。日本経済は中国というパートナーなしでやっていけません。人的交流の面でも拡大の一途をたどり、2003年統計によれば、在日中国人の人口は既に42万人を超えました。在日朝鮮韓国人の人口に迫る勢いで増加しており、10年間で2倍強の増加です。その一方で、中国に暮らす日本人も6万人に増え、米国、ブラジルに次ぐ規模です。このように、日中間の交流機会が増加しているにもかかわらず、中国人の文化や社会があまりにも理解されていないため、様々な分野での摩擦が生じています。

経済面では、日本側の中国野菜に対するセーフガード発動、その報復措置としての中国側による輸入自動車への特別関税などが記憶に新しいところです。政治面では、靖国神社参拝、教科書検定問題、従軍慰安婦、南京大虐殺などの議論が常に対立の火種となっています。社会面では、外国人犯罪の増加がセンセーショナルに報じられ、新たな偏見を生みつつあります。

今後、日中関係は日本の行く末を決定する上で大きな意味を持つこととなります。一時の感情に流されることなく、冷静に中国人の物の考え方を理解しようと努めるべきです。

- ナショナリズムに陶酔する日本と中国

北京オリンピック開催が決まった2001年、私はちょうど北京大学に滞在していました。開催地決定直前にはオリンピック招致コンサートが開かれました。そこでの歌には、彼らの感情が如実に反映されていました。例えば「結束百年の遺憾(百年の恨みを晴らす)」や、「多少年在一起承受風和雨(どれだけ共に苦労してきたか)」など、一世紀にわたって日本や欧米から受けてきた恨みを晴らし、見返してやるチャンスが来たというわけです。我々からすれば大げさに映りますが、彼らにとっては真実であり、このような意識が高度経済成長を背景に、どんどん高まっていることは間違いありません。

しかし、順調な経済成長の影で、中国社も蓋を開ければ、日本よりも激しい競争社会(能力主義、成果主義)で強いストレスのもとにあります。年功序列もなく、成果第一主義ですから、結果を出せない者はどんどん切り

捨てられます。幼い頃から、このような競争を強いられ、とにかく勝てばいい、金さえ儲ければよいという風潮が支配的になり、社会的倫理の頹廃が顕著です。貧富の差は広がる一方で、中国共産党官僚の汚職も蔓延しているため、共産党の威信は低下傾向にあります。

共産党もメンツにかけて威信回復と党員の倫理を回復させるために厳罰で臨んでいます。効果がなかなかありません。そこで威信回復の妙手として、ナショナリズム高揚が図られているのです。つまり、共産党が日中戦争を勝ち抜いた末に政権を勝ち取った歴史を強調することで、政権の担い手としての正統性をアピールし、同時に、オリンピックに代表されるような国家的イベントを利用して、貧富の差を超えた社会の一体感の回復を狙っているのです。残念ながら、そのなかで「日本=悪者」が強調され、フラストレーションのはけ口にされていることも否めません。

サッカーのアジア杯を見て、中国人があれほどまでも反日感情をむき出しにしていることに、ショックを受けた方も多いでしょう。しかし、中国人が夢中になるスポーツといえば、サッカーとバスケットボールです。その大好きなサッカーで大嫌いな日本人に負けることは相当なショックなのです。そもそも天安門事件に代表されるように、北京は「政治的に熱い土地柄」です。そこに日本が来て、中国を負かすということは、感情的に受け入れられない現実だったのです。これは相当数の中国人にとって否定できない心理的事実だと思います。

しかし、その感情を暴発させ、フリーガン的行為に走ったものは、社会的に抑圧された貧困層や若者だけで、極めて少数であることも忘れてはなりません。大多数の中国人は、その気持ちを抑える良識を持ち、一連の騒動に否定的です。我々がいたずらに感情的な反発をしたところで、事態の解決にはつながりませんし、靖国神社の問題のように、日本の政治家のミスリードが続けば、中国共産党の愛国反日教育に良い材料を提供するだけです。我々が本当に世界に誇れる国になっていると思うのなら、それだけの度量を見せる必要があります。

商学部教授

小川 利康さん

(おがわ としやす)

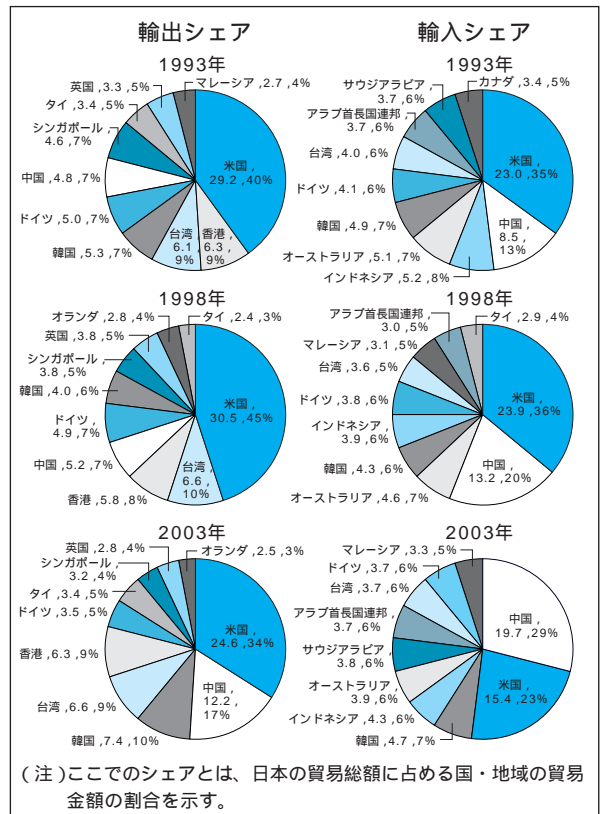
略歴：1963年生。早稲田大学大学院博士課程中退。大東文化大学を経て、現在早稲田大学商学部教授。専攻は現代中国文学、中国語CAI。
<http://china.ogawat.net/>



- 顔のある日本として、もっと自己主張を

日中間の摩擦を回避していくためには、これまでのボタンの掛け違いを一つ一つ改めていく必要があります。そのためには中国人をより深く理解する努力が必要です。我々は、今の時代を生きる中国人の名を何人挙げられるでしょうか。江沢民、胡錦濤しか知らないようでは相互理解も難しいと思うのです。

一方、これだけ摩擦があるなかでも、中国では若者を中心に日本のアニメ、テレビドラマ、歌謡曲が広く親しまれ、原作漫画も相当数が翻訳され、愛読されています。ほとんどが日本側からの働きかけなしで流行したものです。もしかしたらフリーガンになった中国人も「GTO(中国では麻辣教師)」を好きで見ていたんじゃないか、と思うのです(笑)。現代中国人の中には矛盾した日本人像が同居しています。だとしたら、その矛盾の解決のために我々がもっと努力しても良いのではないかと思います。



(注)ここでのシェアとは、日本の貿易総額に占める国・地域の貿易金額の割合を示す。

(出典：財務省「貿易統計」よりジェトロ日本経済情報課作成)